

ゆうこうの家通信 Vol.4

発行:

発達・心理相談センター
「ゆうこうの家」

名古屋市天白区表山1-1753-2

電話 052(880)7704

「ゆうこうの家」は、発達障がいを始めとする障がいや、こころの問題をもつ人々に対し、療育やカウンセリングを中心とした支援活動を行い、より健やかで豊かな成長と、社会への適応を支援することを目的としています。

また、「ゆうこうの家」通信は職員や利用者の家族の編集・取材・協力により不定期に発行しています。

日々の療育・イベントの様子、また人には言えない(?)本音など、利用者の家族ならではの視点で編集しています。利用者の方、これから御利用を考えていらっしゃる方の参考になりましたら幸いです。

「ゆうこうの家」は、年間いくつかのイベントを行っています。2012年もたくさんのイベントがありました。それらをご紹介します。

保護者交流会

2012年7月22日(夏季) 1月20日(冬季)

「うちの子、これからどうなるの?」「こんな時、どうすればいいの?」「他のおうちではどうしているの?」

周りに同じケースや、気軽に相談できる人がなかなかいなく、何かと不安になりがちなのが、親(保護者)というもの。

そんな親たちのためにゆうこうの家が開催しているのが、保護者の交流会です。

普段気になる事を専門家の先生ではなく、同じ立場の親同士で意見交換しています。

今回は3歳の保護者の方から、小、中、高校生の保護者の方まで、毎回およそ50名ぐらいの親御さんたちが参加しました。回を重ねるごとに夫婦で参加される割合が高くなってきているようです。ご夫婦でも単身でも参加費は変わりませんので、もっとたくさんのお父さんのご参加を、お待ちしております。お母さんが気になるのは学校での過ごし方、進学先など。お父さんは社会への参加の仕方、就職の問題、人生の生き方など、視点の違いが見て取れます。

「これから先、普通学級でいいのか」「特別支援学級に入れるべきか」「普通の中学、または高校に進めて大丈夫だろうか」

「国語が全くできない」「読書が大好き」「算数ができない」「算数が大好き」「おしゃべりが大好き」「会話が苦手」

このように、ゆうこうの子どもたちは、一人ひとりが全く違う個性を持っているため、一概にひとつの進路をお勧めすることはできません。だからこそ、「うちの子はこうだった。だからこうした。そうしたらこうなった」という

生きた経験談が非常に貴重な資料となります。

「うちの子はこの人の子どもにも、似ているパターンがある。だったら同じ進路を選んでみようかな」

というふうに、参考例として取り上げ、検討材料にしてみてください。

中には遠くから時間をかけて通われている親子もいらっしゃるって、真剣さが伺えます。遠方のみなさんからは、地方、地域ごとに市政の方針が全く異なるという発見をいただけます。発達障害に理解のある学校、全く理解のない学校。いまだに「発達障害ってなんですか、治りますか」と聞いて来る教師。実にそれぞれですが、親の意見が市政に届く事などほとんどないのが実情。特に理解のない地域ではどうやって学校に協力と理解を求めるのか、それはやはり親の努力(と、根性?)にかかってきます。

「発達障害に関しては、ちゃんと勉強しているし、経験もあります。お任せ下さい」と頼もしい学校や教師も、存在しているのですけれど...

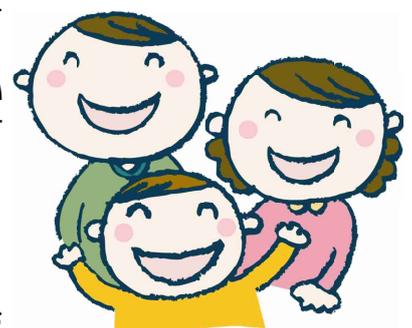
同じ学区同士のお母さんたちからは、それぞれの学校の支援体制の状態や、進学指導のあり方など、細かくても有益な情報を得られることもあります。

ただ、あまりがんばりすぎると、疲れてしまいます。お母さんや保護者がうつや不眠症になることも珍しくありません。お母さんが倒れたら、家庭は大変。まず、保護者自身を大事にすることが肝心と思われれます。

時にはこんな交流会で思いのたけをぶちまける事も大事。みなさん大変さは骨身にしみて分かっているので、「うんうん、わかる。うちも同じよ」と、頷いてくれたりします。それが一番、癒されるのかも知れませんが...

毎回、先輩のお母さんたちからの意見は、非常に参考になるというお言葉をいただいています。特に、高校生、高校以上のお母さん方、いつもご参加いただき、ありがとうございます。

今後は、同年代のお



子さんをお持ちの保護者の方たちの交流会など、それぞれテーマを変えた交流会も検討しています。是非、ご参加ください。そして「子どもはちゃんと成長する」と、少しでも安心して疲れを癒せれたら、幸いです。

ゆうこうお泊り会

7月29・30日

小学5年生以下17名が参加

恒例となってきた、喫茶木馬でのお泊り会

1日目は、地下鉄に乗って瑞穂運動場プールへ。身長制限に引っかかって、すべり台で滑れないことが悔しくて、中々気持ちが切り替わらない子どももいましたが、少し時間がたつと気持ちを切り替えて、楽しく泳ぐことができていました。

今年は、泳いで疲れた後の帰路も、スムーズな子どもたちばかりでした。

木馬1階の喫茶店で昼食をとり、調理実験とSSTゲーム。

凍らせたプチトマトとブドウを使って、水をつけるだけで簡単に皮がむけることにとってもテンションが上がっていました。また、バナナに穴を空けて、そこにチョコレートを流し込み凍らせると、冷凍チョコバナナのできあがり！

SSTゲーム、班ごとに共通する好きな物や嫌いな勉強など、共通点を探す中々難しいゲームでした。ジェスチャーペアゲームとは、同じカードの人をジェスチャーを頼りに探してペアになるというゲーム。上手にジェスチャーができる子どもが多く、仲良く楽しむ事ができました。

その後、夕食を食べ、スイカ割り。

ある先生がスイカをグーで割ったのにビックリして、とても印象に残った子もいたようです。

そして花火大会。家族ではなかなかできないくらいの大量の花火をみんな次々に手に取りました。火のついた花火を最初は怖がりながら、興奮しながらでしたが、次第に慣れていきました。

2日目は、朝から工作活動です。ペットボトルと風船を使って空気砲を作りました。

点数のついた



まとを、自分たちで作った空気砲で倒したりして、大いに盛り上がりました。

最後に、お泊り会の思い出を絵日記に書いておしまい。

悪戦苦闘する子どもいましたが、全員最後まで書き上げることができました。

絵日記の思い出は、プールで泳いだことと花火をしたことを書く子どもが多かったようです。

おかげさまで参加者の子どもの数が増えてきたため、新年度からは2回に分けて実施しようと考えています。



ゆうこうキャンプ(in若狭湾)

8月16～18日

小学5年生～高校2年生

16名が参加



今年は福井県の国立若狭湾青少年自然の家に2泊3日のキャンプにでかけました。

全行程、天候にも恵まれ、海と山に囲まれた自然を満喫することができました。

まずは観光バスに乗り、日本海を目指して出発。

1日目は、遊泳とキャンプファイヤー。

遊泳ではスーパーフロート(大型のビート版)を使って、泳いで行く子どもいれば、カヌーに挑戦する子など、長時間、海・海・海を楽しむ事ができました。

晩御飯のメニューは鉄板焼きです。

野菜を切る人、野菜を炒める人、火の番をする人などなど、汗だくになりながら、自分のできることを精一杯こなして出来上がった夕食の味は格別だったようです。(海で



泳ぎ疲れて、ぐったりしていた子もいましたが...

それから、キャンプファイヤー。火柱が上がっていく様子を、みんな静かに眺めていました。



夜になると、少し疲れたのか体調が心配な子も出ましたが、そこは御同行して下さった魚住先生にお任せ。魚住先生と別室で一夜を明かしていただきました（変な意味ではないですよ）。頼りになります。さすが先生！



2日目の午前中には、このキャンプのメインイベントでもあるカッター（30人乗りの手漕ぎのボート）に挑戦。



ところが大人のうち、一人は必ず陸地待機していなければならないため、魚住先生にしぶしぶ残っていただきました（本当は乗る気満々だった

ようですが、そこは年齢を考慮して...) いやいや、さすが先生！我慢役を引き受けてくださいました！（次は乗ってくるかもしれません）

先生を陸地に残し、力を合わせ、一生懸命カッターを漕ぎます。みんなで漕ぐとぐんぐん進み、あっという間に元いた場所が小さくなっていき



ました。ふと、近付いた山に向かってみんなで「やっほー」と叫んでみたら...、「やっほー」という声がこだまして返ってきました。それが面白くて、大きな声で何度も「やっほー！ やっほー！」

無事に陸地に戻り、ライフジャケットを脱ぐとジャケット跡に汗がびしょり。午後からの遊泳が気持ちよかったのは言うまでもありません。

感想としては、もっと日頃から高校生たちに、もう少し筋トレさせないといけないなあと思った事でしょうか。全くです。運動部に入る事がほとんどない子どもたちなので、背は伸びても筋肉はあまり付かないのです。

3日目は、若狭塗り箸づくりです。

漆を削って、中に入っている輝く貝を上手に出すために、丁寧に黙々とやすりをかけていきます。上手に貝を出せた子もいれば、削りすぎて木が見えてしまう子もいたり。

それぞれが自分らしい箸を作ることができたようです。帰りは雨の中、またまた渋滞に巻き込まれながらでしたが、全員無事に帰ってくる事ができました。魚住先生を始め諸先生方、本当にお疲れ様、ありがとうございました！



子どもたちが帰っていった後に待っていたのは.....。耐震工事のため、ゆうこうの家全体の大掃除、デスク、棚、荷物の移動！

お盆休み前後に耐震工事を施したのです。これで以前よりも頑丈なゆうこうの家になりましたよ。

第3回「ゆうこうの家」教育講演会

11月11日に開催

117名の方に足を運んでいただきました。

講師には、ロイヤルベルクリニックの早川星朗先生をお招きして、「発達障害を持つお子さんへの関わり方」という演題で、講演をしていただきました。

講演では特に、

Positivity（肯定的に考える）

Respect（障害を持つ人に敬意を払う、人権）

Independence（自立した生活ができるように支援する）

Structure（構造化された指導戦略、構造化された環境）

Maintenance of support（連携した支援の維持・継続）

という5つのキーワードをもとに、関わり方理念と技術について、非常に分かりやすく丁寧に解説いただきました。

第1回「ゆうこうの家」作業実習

2月24日

参加者18名

小学生以上の特別支援学級、特別支援学校在籍の子どもたちを対象に、3時間の作業実習を行いました。

参加した子どもたちは小学2年生～高校2年生。18名という人数もさることながら、子どもたちそれぞれがこなせる作業レベルの差もとても大きいので、多種多様な種類の作業をいくつも用意するのは、なかなかの苦勞でした。

当日も、長机を6つ横並びにして、ようやくすべての作業課題を置けたという量。

ずらっと並べて眺めてみると、なかなか壮観な光景でした。

当日は、子ども18名に対して、スタッフ5名（+1名ボランティア）で臨みました。2階で待機している保護者の方の交流の場で



は、先生たち大丈夫なのかな?と心配する話がよく出ていたそうです。(ご心配おかけしました~)。

そんな保護者の方の心配は杞憂だったようで、なんとか3時間の実習を終ることができました。



最後に調理を担当した子どもたちが作ったクッキーを食べべて終了。クッキーはお土産のお持ち帰りにもなりました。



後日、クッキー美味しかったですと言ってもらえて、本当に良かったです。(試作と当日の残りとして、暫くはクッキー-腹になってました~。ラッキーな誤算ですね)

集団場面での長時間の実習を通し、普段の個別療育では見られない点もたくさん見え、この集団場面、かつ長時間の実習の必要性を改めて実感することができました。今後は、グループ分けをより厳密に行い、子どもの特徴やニーズに合わせた実習を増やしていきたいと思ひます。

第2回「ゆうこうの家」豆知識講座

講師; 守山養護学校校長の大島正秀先生
タイトル; 『現実的な進路・就労に向けて』~養護学校の現状・課題と産業科の概要~

はじめに養護学校の在籍状況や支援状況、進路状況など、都道府県別に解説していただきました。

その後、創設2年目となる守山養護学校産業科について、どんな授業を行っているのか具体的に説明していただきました。今後、就労にあたり、<企業が必要とする力>と



して、作業能力よりも、コミュニケーション力、体力(+気力・忍耐力)、安全への意識・気配り、マナーや態度を重視しているというお話にすごく共感をもてました。

また、反対に「企業から断られるケース」として、欠席・遅刻が多い、嘘をつく・言い訳をする・黙り込む、清潔感に欠ける、障がいの特性だから仕方ないと主張する、などドキッとする面も多々ありました。

講演会後も時間を延長して、一人一人の方に丁寧に質問に答えていただき、また、一芸も披露していただき、会場を沸かせていただきました。大島先生、本当にありがとうございました。

ご寄附ありがとうございます

敬称略

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 赤坂 徹 | 呉 暎子 | 永田裕美子 |
| 浅井 好美 | 黒瀧 弘美 | 中原 慶子 |
| 池山久美子 | 小池 勝代 | 中山 雅博 |
| 磯貝 光代 | 古賀麻理子 | 奈島 由佳 |
| 伊東 慶子 | 小島 有美 | 新美 晃子 |
| 伊豫 和子 | 小菅 行男 | 西村 秀一 |
| 岩崎 教行 | 小林 里恵 | 西村 澄子 |
| 岩崎 正城 | 子安 春樹 | 橋本千鶴子 |
| 岩崎 洋子 | 近藤フミコ | 蜂谷 明子 |
| 岩間 正文 | 近藤美代子 | 福島 章子 |
| 岩山 淑子 | 近藤 康子 | 藤掛 守彦 |
| 上井まゆみ | 酒井 正義 | 前田 敏子 |
| 江良 健 | 佐光 郁美 | 松本 一仁 |
| 江良 洋子 | 佐々木あき | 松山 千恵 |
| 大崎 恵子 | 佐々木利佳 | 真野 月子 |
| 岡本 忠篤 | 佐藤 純子 | 宮田 隆夫 |
| 小国 良子 | 佐藤 利晃 | 三輪 利雄 |
| 小澤 綾子 | 柴田 満 | 村井 範子 |
| 小澤 秀子 | 島 広子 | 矢崎 進 |
| 片岡有美子 | 嶋 康子 | 安田 和子 |
| 加藤 隆宏 | 清水 正子 | 山口 篤子 |
| 唐木 恵子 | 志水美奈子 | 山下智恵子 |
| 川嶋 潔 | 杉崎 弘子 | 山田 和子 |
| 川野美紗子 | 杉山きく子 | 山田加奈江 |
| 神田 和郎 | 鈴木富美子 | 山田 宝 |
| 菊池 哲 | 高嶋 芳樹 | 山田八重子 |
| 菊池 方子 | 田中 栄一 | 横井 敦子 |
| 工藤 慎一 | 玉木 幸子 | 吉田 政己 |
| 工藤 雄爾 | 峠岡 敏子 | 吉原 裕美 |

合計金額 ¥412,000

「ゆうこうの家」代表挨拶

魚住君枝子

新学期、不登校だった子が少しずつ、登校し始めている。ゆうこうの家のスタッフ達もそれに勇気づけられている。そんな4月です。また、昨年度たくさんの方にご寄附いただきました。大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。